

Title	研究開発活動の行動科学分析
Author(s)	小山, 和伸
Citation	年次学術大会講演要旨集, 14: 111-113
Issue Date	1999-11-01
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/5746
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般論文

○小山和伸（神奈川大経済）

本研究は、科学技術庁振興調査費による「R&Dマネジメント総合研究」（平成3年度～7年度）の一環として実施された「R&Dマネジメント・ツールの試行評価」において行われた調査に基づいている。

本研究は、企業内研究開発プロセスにおける活動の内容を分類し、活動内容の変化と成果との関係明らかにすることを目的とし、また企業内研究開発の調査に、行動科学的アプローチを提唱しようとするものである。本研究では、一定のテーマにかかわる特定の研究者に対する、継続的かつ体系的な行動研究により、研究テーマの性質と、そこに見られる研究プロセスの特徴を明らかにし、研究開発パターンを分類した。これによって、効率的な研究開発の進め方、研究テーマの性質に即して示唆され得るようになるかも知れない。事例の数々余りにも少なく、一般化への距離は未だ遠く隔ってはいるが、適切な演繹によって、正しい因果の連鎖が導かれれば、研究開発活動を効率化するためのマネジメントは、意外にも早く実現されるのかも知れない。以下では、本研究の要点を整理しておくことにしよう。

1. 本研究の目的

企業内研究開発の行動科学分析

2. 研究方法

企業内研究者の行動記録の収集

- (1) 投入された実質的な研究開発時間の算出（行動記録調査票の集計）
- (2) 達成された研究開発成果の測定、（例 マイルストーン方式による表示）

3. 分析結果

「実験先行型」 — 基礎的分野の研究テーマ、R&Dの前半に実験データ収集を重視、後半での推論、意味づけ。

「実験後発型」 — 未経験で新規性の高い開発分野のテーマ、R&D前半で実験の方針決定のための文献探索や会議に重点、後半で実験による成果向上。

「波動型」 — 基礎から応用・開発を行き来するようなテーマや、他部門との情報交換が不可欠なテーマ、R&D全体を通じて実験と実験以外の行動が交互にウエイトを移動する。

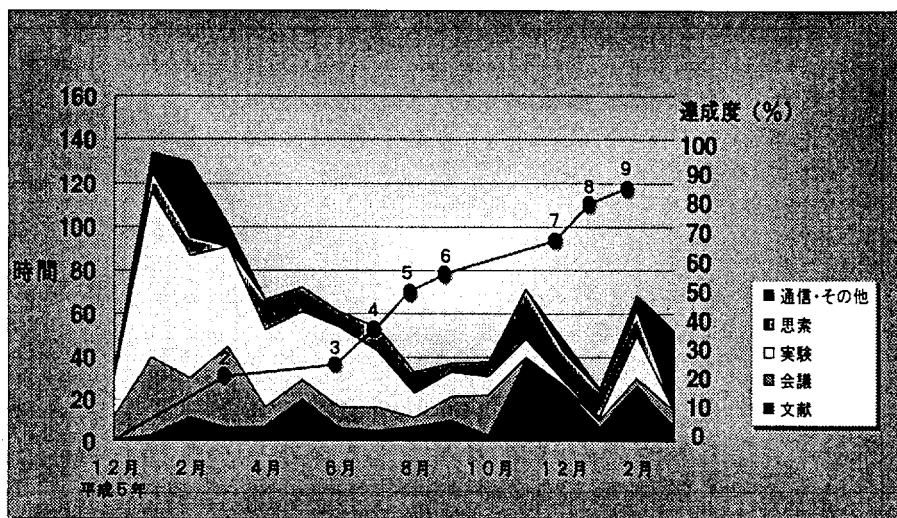
「モノトーン型」 — 過去の経験の延長線上にあるような研究テーマ、開発分野に属するR&Dテーマ。

【表-1】研究者の行動記録調査票

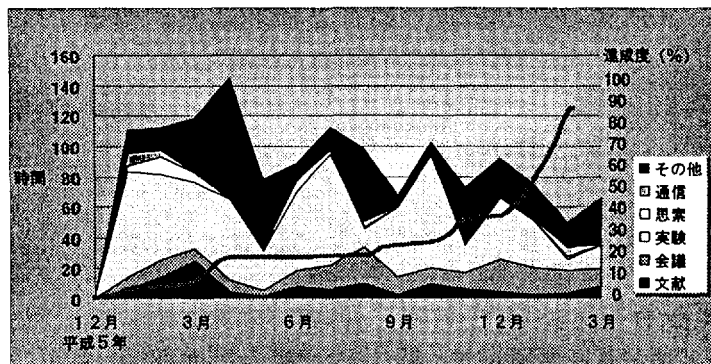
平成 年 月 日()

氏名 _____

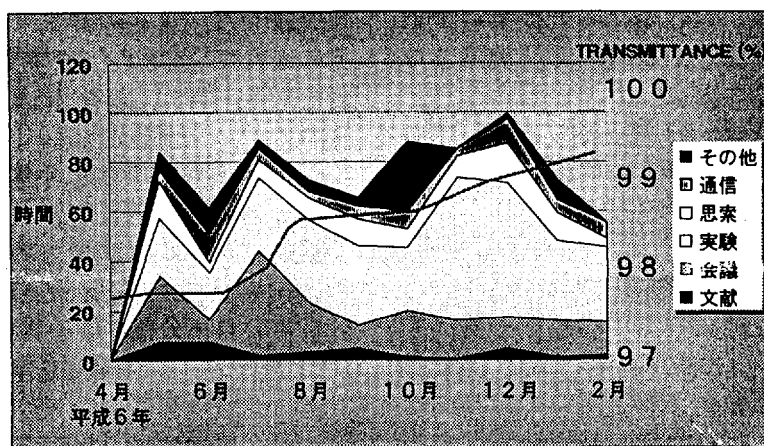
		8時	12時	13時	17時	24時
文 献	学術論文					
	評論文					
	雑文					
	その他					
会 議	研究討論					
	非公式研究会					
	事務処理会議					
	その他					
実 験	実施・観察					
	準備					
	整理					
	その他					
思 索	新アイデア創出					
	既存アイデア検討					
	その他					
通 信	文書による研究相談					
	電話による研究相談					
	その他					
そ の 他	製造現場の問題処理					



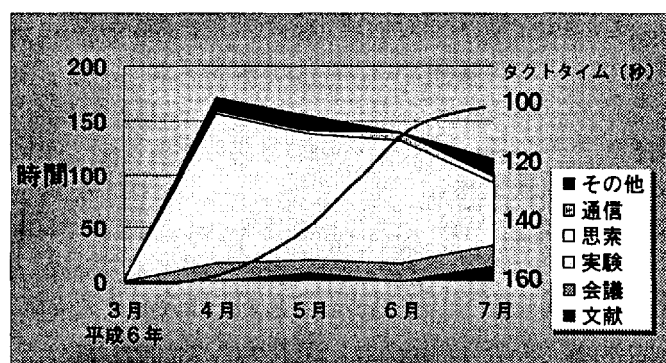
【図-1】T氏のR&D活動と成果の向上



【図- 2】O氏のR&D活動と成果の向上



【図- 3】M氏のR&活動と成果の向上



【図- 4】U氏のR&D活動と成果の向上